6 毎日新聞

2019年12月19日 (火)共同通信社・金沢支局が青山彩光苑正面玄関で取材。

毎　日　新　聞

バリアフリー化進むＪＲ金沢駅

車いす目線で「安心」確認

独自調査しガイドブック 七尾の桶屋さん

北陸新幹線の開通後、多くの観光客でにぎわうＪＲ金沢駅（金沢市）のバリアフリー化の最新状況を、車いす利用者の桶屋亜一さん（63）＝七尾市＝が独自に調べ、ガイドブック「車いす目線から巡る金沢の旅・2019」にまとめた。改善が進み「ずいぶん利用しやすくなった。金沢は車いすでも安心して観光できるだと伝えたい」という。

ＪＲ西日本金沢支社によると、ＪＲ金沢駅には、1日の利用者約2万人のうち、車いすの介助依頼は30～50人程度。駅の設備や対応が不充分で、交通機関を使いたくない」という車いす利用者も多いことから「もっと利用者が増えれば」と桶屋さん。

口分の出発地点にデジタルカメラを固定し、歩いている人よりも低い車いす目線から、バリアフリー化の状況を写真に記録。車いすの操縦や障害の程度によって難易度が異なってくる改札口やエレベーターの入り口は寸法を細かく測定するなどした。

冊子は88ページ、1500円で、帰宅してから改めて出てコースを移動するまで、駅を通って感じる一方、「初めて来た人の位置が高い上、下部に車いすが入り込める設備がないため膝下が痛い」などと対策が不十分な場所を指摘し、改善も求めた。

生後間もなく脳性まひを患い、七尾市内に住む桶屋さんは、駅の設備を使いたくても使えなかった経験を持つ。「駅前の段差、駅前通路と人れなかった」と悔しい思いをしていた。2008年にデジタルカメラを購入したことをきっかけに、金沢駅周辺の交通機関のバリアフリー化の取材に乗り出し、今回の冊子を作成。今回はＪＲ西などの協力で初めて金沢駅を選び、1年半を費やして編集した。県内の病院や福祉施設には無料で配っている。

「公共交通機関の対応は進歩したが、利用者の少ない地域に行くとまだまだ不十分」。最近は自分が住む街にも改札に近くほしいという声が届くといい「バリアフリーを社会への理解を深める一助にしたい」として冊子作成を続けていく考えだ。

ＪＲ金沢駅のバリアフリー化の最新状況をガイドブックにまとめた、車いす利用者の桶屋亜一さん＝七尾市で

ＪＲ七尾線で電車に乗り込む桶屋さん＝七尾市で2019年5月、本人提供

2020 年 1 月 23 日 (木) 「毎日新聞」朝刊